

ゲスト利用者のネットワーク認証に活用

学認による認証とキャンパスネットワークの認証を連携

広島大学

広島大学では、ネットワークの利用に際して利用者認証を実施している。そのため、学外者がネットワークを利用するにはゲスト ID が必要になるが、本学では学外者の認証に学術認証フェデレーションと連携する仕組みを導入して、ゲスト ID を不要とした。

課題

現在、本学ではセキュリティ強化の一環として、キャンパスネットワークの利用者にネットワーク認証を求めている。これはインシデント発生時の調査に備え、ネットワーク利用者の使用状況を追跡可能にするためであった。しかし、本制度の導入により、来訪者を迎える受け入れ担当者はゲストIDの申請・管理業務に追われ、来訪者は慣れない ID とランダムなパスワードの入力に苦戦するなど、担当者、来訪者双方の負担増が指摘されており、その軽減策が課題であった。

解決策

2008年5月、HINET2007によるネットワーク認証の導入以来、Web ブラウザ上でのネットワーク認証なしにはキャンパスネットワークを利用できなくなった。そこで問題となったのが、来訪者などゲスト利用者のネットワーク認証である。

原則として認証されていない利用者のネットワーク接続は認めない。そのため来訪者は事前に学内の受け入れ担当者を通して利用申請を行い、その担当者からゲスト ID・パスワードを受け取らねばならなかった。そのため、学会や研究発表会などの大規模な集まりになると受け入れ担当者の事務能力を超えてしまうことも予測され、その対応策を協議していた。そこで検討したのが学術認証フェデレーション(学認)の活用であった。

本学で認証が必要なサービスはネットワークだけではない。これまでも学生・教職員ポータルをはじめ、電子ジャーナルや eラーニングなどの学習支援サービスを利用するたびに認証を行っていた。しかも、サービスごとの認証作業が欠かせないため、サービスが充実すればするほど認証作業も増えてしまうというジレンマもあった。とりわけ電子ジャーナルサービスのシングルサインオン(SSO)化はかねてからの懸案でもあった。そこで

HINET2007の導入を機に、利用者のほぼ全員が利用するネットワーク認証をSSOの入り口とし、学認を活用した電子ジャーナルを含めた認証連携の実現を検討していた。

そうした経緯から学認の利用を検討していた本学は、来訪者の認証にも学認の認証連携を活用する方式を開発し、来訪者が学認参加組織の構成員の場合、ゲスト ID を発行するのではなく、学認の認証によって本学のネットワーク認証も自動的に行われるように HINET2007 に機能を追加することにした。

結果

この機能の追加によって、学認参加組織に所属する来訪者は、普段使っている ID とパスワードで本学のキャンパスネットワークを利用できるようになった。この仕組みによるゲスト利用の第1号は、本学が主催するシンポジウムに出席された国立情報学研究所の安達淳教授で、認証手順の簡便さについて「ネットワークの認証よりも無線LANの接続の方が大変だった」と笑う。所属機関がまだ学認に参加していない来訪者は依然として学内への受け入れ担当者による申請が必要だが、本学の来訪者の多くは学術関係者なので、今後、学認参加機関が増えることで来訪者の利便性も向上していくものと期待している。

(広島大学 情報メディア教育研究センター 西村 浩二)

